相楽木綿の歴史

相楽木綿は、明治初期から昭和10年代にかけて、京都府南部の相楽村（現木津川市相楽）を中心に生産されていました。

この地域は江戸時代から綿作が盛んで、自給的機織りも行われていました。また隣接する奈良の特産品である高級麻織物「奈良晒」の生産地でもありました。

明治時代になり、「相楽木綿」と呼ばれた木綿を織り始めるようになりました。

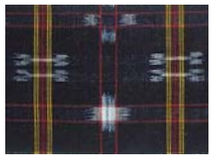
相楽木綿は地元の南山城をはじめ、奈良、京都、滋賀、大阪などに流通し庶民の布として愛用されていました。

相楽木綿の特徴

相楽木綿は、藍染の紺地に色糸の縞と絣が織り込まれた美しい木綿織物です。

縞と縞の間に絣が使われていたり、「たっちょこがすり」と呼ばれていた色糸縞と経緯絣の組み合わせや、緯絣で文様を作り出す「工夫絣」など絣と色糸の多様使いが特徴です。

また、風合いの良い布が織れるといわれる「大和機」や、その改良機である「チョンコ機」で織られた味わいのある手織り木綿です。



相楽木綿経緯絣裂

相楽木綿工夫絣裂

●ご案内●

南山城地方に伝わる綿文化、綿の栽培から綿繰り、綿打ち、糸紡ぎ、機織りをして布ができるまでの一連の活動を体感することができます。

相楽木綿、機道具、綿畑の見学
綿繰り、綿打ち無料体験
機織体験、糸紡ぎ体験、機織教室（予約制、有料）
（詳しくはスタッフにお尋ねください。）

和綿の花

和　綿

相楽木綿ができるまで

絣括り

絣は、織る前に柄に応じて染め分けた糸（絣糸）を作り、絣糸によって文様をあらわす技法です。

経絣括り

絣の部分だけ別に白糸のまま整経して、計算にしたがって絣くくりをします。

緯絣括り

絣くくり枠で行います。枠の周囲が織り巾の一往復になっています。

藍　染

紺屋さんに正藍染に出します。

整　経

機にかけるのに必要な経糸の長さと本数を畦を取りながらそろえます。

ちきり巻き

整経した経糸を粗筬に通して、ちきりに巻き取ります。

もじり通し

畦の順番通りに経糸を一本ずつもじり（糸綜統）に通します。経絣糸もこの時、柄の順番に入れ、一緒にします。

筬通し

織り巾を保ち、緯糸を打ち込む筬に上糸、下糸を二本一組にして通します。

機織り

杼で緯糸を入れ織り始めます。経糸と緯糸の交差の繰り返しで布が織り上がります。

相楽木綿の絣括りをされていた、ただ一人の伝承者から当時の技法を習いました。一本の糸でつなげて括り、解いて再利用ができます。

古きと出会い、新しきを創る

「相楽木綿」